

第3節 アジア経済の見通しとリスク

第1章第2節でみたように、アジア経済は、総じて回復に向かっている。以下では、アジア経済の先行きに係るメインシナリオとそれに対するリスク要因についてみていく。

1. 経済見通し（メインシナリオ）— 回復傾向が続く

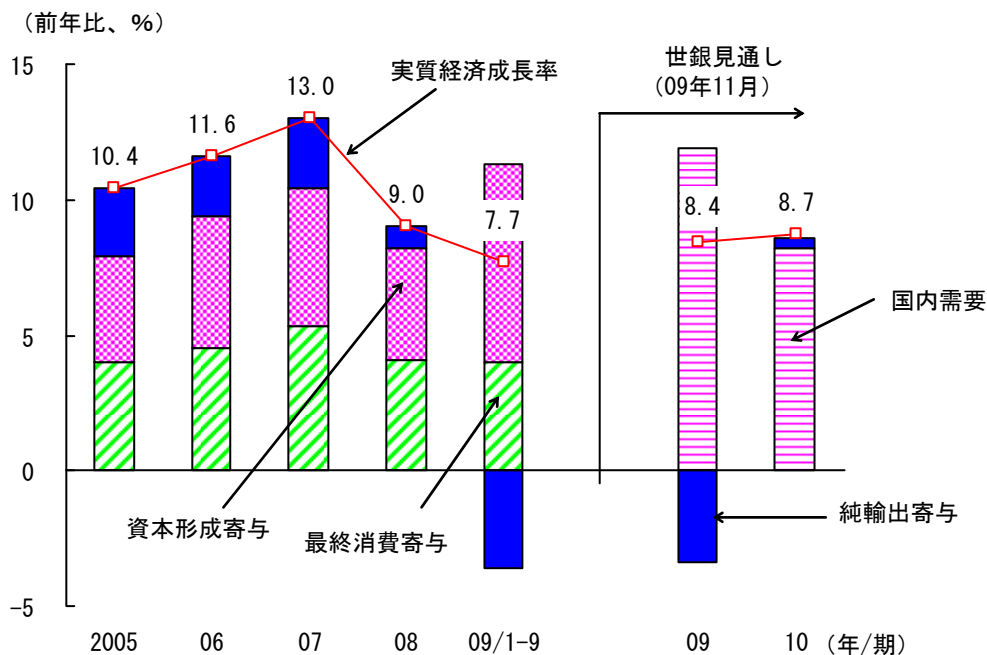
中国では、2008年11月に発表されたインフラ投資を中心とする4兆元規模の対策や、自動車・家電を対象とする消費刺激策等の効果もあり、景気は内需を中心に回復している。先行きについても、欧米向けを中心に輸出は弱い動きを続けるものの、引き続き内需が堅調に推移すると見込まれることから、回復傾向が続くとみられる。今後、欧米経済の本格的な回復と併せて、更に成長率を高めていくことが見込まれる（第3-3-1図）。

韓国、台湾、ASEANをみると、景気刺激策の効果や中国向け輸出の増加もあり、総じて景気は持ち直している。先行きについては、引き続き中国向けの輸出が堅調に推移するとみられることなどから、回復に向かうと見込まれる。ただし、これらの国は、国内市場が小さく、輸出の名目GDPに占める割合が高く、また、欧米向け輸出の回復に依存している部分が大いことから、本格的な回復は、欧米経済の回復と歩調を合わせたものになると見込まれる。

インドについては、景気は内需を中心に持ち直している。先行きについては、09年のモンスーン期における深刻な雨不足による農業生産の減少が個人所得にマイナスの影響を与えるとみられ、景気の回復スピードは過去の景気拡大局面に比べると緩やかなものになると見込まれる。

なお、国際機関の見通しをみると、中国は10年に9～10%程度、インド、インドネシアは5～7%程度と09年から成長率を高め、その他の国でも、09年のマイナス成長から2～4%程度のプラスに転じる見込みとなっている。しかし、世界経済の回復が緩やかであることから、過去の景気拡大局面と比べると低めの成長率が見込まれている（第3-3-2表）。

第3-3-1図 中国：実質経済成長率と需要項目別寄与度



(備考) 中国国家統計局、世界銀行より作成。

第3-3-2表 アジア各国の実質経済成長率の見通し

(前年比、%)

	IMF (09年10月)		ADB (09年9月)		OECD (09年11月)	
	2009年	2010年	2009年	2010年	2009年	2010年
中国	8.5	9.0	8.2	8.9	8.3	10.2
韓国	▲ 1.0	3.6	▲ 2.0	4.0	0.1	4.4
台湾	▲ 4.1	3.7	▲ 4.9	2.4	—	—
シンガポール	▲ 3.3	4.1	▲ 5.0	3.5	—	—
タイ	▲ 3.5	3.7	▲ 3.2	3.0	—	—
マレーシア	▲ 3.6	2.5	▲ 3.1	4.2	—	—
インドネシア	4.0	4.8	4.3	5.4	4.5	5.3
インド	5.4	6.4	6.0	7.0	6.1	7.3

- (備考) 1. IMF “World Economic Outlook” (09年10月1日)、ADB “Asian Development Outlook 2009 Update” (09年9月22日)、OECD “Economic Outlook 86” (09年11月19日) より作成。
 2. インドのADB及びOECD見通しは、年度(4月～翌年3月)見通し。

2. 経済見通しに係るリスク要因

アジア経済の先行きに関しては、以下の上振れ、下振れの両方のリスクが考えられるが、リスク全体でみると、上方と下方は均衡している。

●下振れリスク

(i) 先進国の景気後退の長期化に伴う輸出の低迷

欧米では、景気は下げ止まりがみられるものの、信用収縮の継続や雇用の悪化等により、景気低迷が続くリスクがあり、この場合、国内市場の小さい韓国、台湾、シンガポール等において本格的な景気回復が遅れるおそれがあり、中国の成長率についても下振れするおそれがある。

(ii) 中国における資産バブル（ファンダメンタルズからかい離した資産価格の上昇）

中国では、一部地域を中心に不動産価格が大きく上昇しているが、こうした上昇がファンダメンタルズとかい離した過度なものとなった場合、金融引締め策が採られる可能性もある。そして、その効果が予想以上に強く現れた場合には、内需を冷え込ませ、景気減速につながるおそれがある。さらに、中国の景気減速により、中国向けの輸出の増加が現在の景気の持ち直しの一因となっている韓国、台湾等の景気をも減速させるおそれがある。

(iii) 一部の国・地域における過度な為替の増価

韓国、台湾等では、このところ為替の急速な増価がみられる。特に、韓国では、世界金融危機発生直後からの大幅なウォン安が輸出持ち直しの一因となったと考えられるが、今後も為替の増価傾向が続いた場合、価格競争力に影響を及ぼし、輸出の回復が足踏みするおそれがある。

●上振れリスク

(i) 世界経済の想定以上の回復に伴う輸出拡大

世界経済の回復に伴い想定以上に各国の需要が高まる場合には、輸出の回復を早め、景気回復が加速する可能性がある。

(ii) 中国の家計消費の伸びの想定以上の高まり

追加的な消費刺激策や株価上昇等による資産効果により、中国の家計消費の伸びが想定以上に高まる場合には、中国のみならず、中国向け輸出の更なる増加を通じて韓国、台湾等の景気回復のテンポが速まる可能性がある。